

日本の書道展の現状～仕方ない人の悲しい性、数を恃む弊害、芸術とは個、だから距離を置かざるを得ない～ プラス私の書道観・今後の展望（令和の書家へのメッセージ）

状態

- 1 日本の書を語る上で避けては通れない？かもしれませんが…（否定的な感じは否めないけれど、遠く薄い目で眺める）
- 2 比較的若い人たちの嘆き＝半端ない不平等感（下の人口が増えてくる前提・直参制度・年金制度と同じ）（正三角形ピラミッドが前提）
- 3 人が増えると秩序が必要、秩序には序列が必要、ではその序列を付けるには…（子供の硬筆審査員をして痛感したこと、本来無いものを有ることにする苦悩）
- 4 書は「差」の定義があいまい、そもそも芸術に「差」などあるのか？
- 5 それでも一応の（本来有りもしない）序列を付けるために「金（カネ）」と「権力（コネ）」が横行する。
- 6 政治の世界と同じ、票は極論カネで買える。可能ならズルしたい人の悲しい本性。（権の本来の意味）（砂上の楼閣でもそれが権力・権威）
- 7 人が本来持つ有能感を得る場所、承認欲求を満たす場所。（展覧会病）
- 8 書などの芸事は本来富裕層の嗜み、権力はあるに越した事はないけれど…（カネ・コネ・真の実力の3つが揃わなければ成り上がれない）

理由

- 1 職業書道家としての苦悩（書いた字に価値が無い？レクシプロでしか生活できない、画家との違い）
- 2 書の評価には大きく2つ。「生き様の評価」と「書格の評価」。（イレギュラーに「権力の評価」と「価値の演出による評価」価値とは？）
- 3 書は蓄積芸術（人生経験が評価される）。若くして才能を発揮できる性質ではない。（書の技術のみでは感心しても、感動できない）
- 4 序列を決める審査員のレベルとは？途方もない知識・見識が本来は要求される。（書＝人、に序列を付けるというある種、傲慢な行為）
- 5 書きぶり偏重＝書なのか？歴史的背景（宋時代からの科挙「書」と「文」の分離・館閣体と御家流・戦後の道がつくもの廃止の逆境）
- 6 書道作家はパクリOK？そのパクリの程度が…（書＝文字＝言葉＝おもいを書く。仏つくって魂いれず・書だけが他の芸術と違う、ただのカラオケ？・分業化の弊害）
- 7 本来「芸術」とは「個」。「徒党」になるとロク（碌）なことにならないのは必然。数を恃むと純度を保てなくなる。
- 8 大きく立派に書くスキルが評価されるという、本来の書とはかけ離れていく現状（目立つための壁面巨大化、大味な書、ただの大道芸？）
- 9 「っぼさ」で煙に巻いてごまかす。英語をなんだかカッコイイと思う日本人の感覚。楷書をしっかりと書けない書家が実はたくさんいる。

展望

- 1 でも発表の場としての展覧会場は必要？プラスこれからの世代はネットで発表の場がある！
- 2 日本人としての書を目指す！それには6体を網羅する必要がある、温故知新をよく考えて！
- 3 何かをぶち壊すエネルギーが充満した時代にこそ素晴らしいものが生まれる！三跡より三筆。令和の書家よ、深く深く勉強し古きに通じた新しいものを生み出そう！
- 4 ついでに字も上手い！を目指す。「書」意外の「文字学」「漢詩」「和歌」「文学」などなど…書＝学問。さらに他ジャンルにも目を向けよう
- 5 今は古今の名品がコピーとはいえ簡単に手に入れられる素晴らしい時代！
- 6 後世（50年後100年後300年後…）の人が見た時に誇れる字を！